

A 重点実践事項に基づいた評価

(令和元年7月実施)

重点実践事項	評価項目	評価
1 高い使命感・職責感をもち、全職員の協働とアイデアで目指す姿を実現する。	(1) 児童生徒数の減少に伴い、小学部・中学部の枠を取り払った学習活動の進め方を検討・整理しているか。	3. 1
	(2) 校務の内容を整理し、分掌組織の統合案に向けて検討を進めているか。	3. 0
	(3) 次年度以降の学校行事(運動会、学習発表会)の在り方を検討し、具体的な計画の立案に向けて準備を進めているか。	2. 8
2 児童生徒の実態と新学習指導要領に基づいた教育課程と個別の指導計画により授業を充実する。	(1) 各指導の形態の年間指導計画にある学習内容を新学習指導要領の各教科の内容と照らし合わせ、学習内容の充足を図っているか。	2. 9
	(2) 見て分かる教材の開発をし、教材・教具庫(棚)を整理し、作成した教材・教具について保管及び共有できるようにしているか。また、学校掲示板にアップし、校内に知らせているか。	2. 8
	(3) 個別の指導計画を指導の形態ごとの目標ではなく、各教科の目標を明記できるような様式を検討しているか。	2. 5
3 保護者・やまびこ、諸関係機関との連携をしながら更なる支援体制を充実する。	(1) やまびこ医療福祉センター担当看護師やリハ部等との情報交換会を計画実施しているか。	3. 6
	(2) 保護者授業参観週間を学期一回ずつ設定しているか。	3. 0
4 保健衛生、安全管理、合理的配慮を充実した安心・安全な学校環境づくりを行う。	(1) 各教室のユニバーサルデザインによる教室環境(掲示、動線、各棚など)づくりをしているか。	3. 0
	(2) 大学等と連携し、重度重複障害教育におけるコミュニケーション力の向上に関する研究及び実践を行っているか。	2. 3
5 積極的な情報収集・発信に努め、センタ－的機能を充実する。	(1) 学校ブログの活用を促進、学期ごとに教育活動の様子に限定した一人1ブログを実践しているか。	2. 3
	(2) 巡回相談等について、鹿児島市教育委員会と連携しながら事例検討型相談内容にしていくための具体的な計画づくりを進めているか。	2. 6
	(3) 地域の幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校のコーディネーターを対象に事例検討会を実施するための計画や準備を行っているか。	2. 5

※ 評価【4：十分達成できている，3：おおむね達成できている，2：やや不十分である，1：不十分である】

<まとめ>

- 全体的に「やや不十分である」から「おおむね達成できている」の中間に位置する項目が多くなっている。
- 実践事項3の(1)「やまびことの連携」に関する項目はポイントが高い。
 - ・ 日頃からの児童生徒の健康状態等についての連携や、自活部が主体となつてのリハ部との情報交換会の設定など、やまびことの連携体制が仕組みとして整っており、計画通り実施がなされていることの成果であると考え。今後も、児童生徒の学習面、生活面の充実が図られるよう、よりよい連携の在り方を探っていきたい。
- 実践事項2の(3)「個別の指導計画の様式」、実践事項4の(2)「コミュニケーション力の向上に関する研究等」、実践事項5の(1)「一人1ブログ」、実践事項5の(3)「コーディネーターを対象とした事例検討会」に関する項目はポイントが低い。
 - ・ 自由記述欄の意見などからも、項目の設定理由や意図が全体で十分に共有できておらず、各係等での計画や引継ぎ等がなされなかつたり不十分であつたりしたことが、ポイントが低くなった要因の一つであると推察される。それぞれの項目について、まずは職員全体で共通理解することが、今後どのようにしていけばよいかを検討する上で必要であると考え。